



大学院研究科・研究開発センター

川越 雅弘 教授

【研究分野】 地域包括ケアシステム、地域づくり
 【キーワード】 地域包括ケア、地域共生社会、多主体協働、プラットフォーム
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid372.html>



多主体が集う「プラットフォーム」を活用した 地域課題の解決手法の開発

研究概要

地域課題が多様化するなか、多主体協働による地域課題の解決が現在求められています。これを実現するためには、①地域課題を知る人と解決力を有する多様な関係者が交流できる場があること、②課題の共有と対策の検討が行える場があること、③課題解決に向けた多様な関係者のコラボ（プロジェクト）が具体的に展開できることが必要となります。

我々は、昨年度から月2回の定期セミナーを開催し、多様な関係者の交流の場作り（プラットフォーム）と課題の共有を図ってきましたが、今後、多主体ネットワークの構築・機能強化と地域課題解決のためのプロジェクトを推進していく予定です。

研究紹介

1. 地域課題と支援者の活動状況を知るためのセミナーの定期開催

- 子ども・高齢者・障がい者・生活困窮者などに対し様々な支援を行っている方や関係者（NPO／社協／医療／介護職／民間企業／自治体など）を招いたセミナーを定期開催しています。なお、これまでの資料に関しては下記URLを参照下さい。

（<https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid373.html>）

2. 異なる領域・分野の支援者同士をつなぐネットワークの構築

- 上記セミナーを通じて、①子どもを支援するためには、家族を含めた包括的かつ継続的な支援体制が必要であること、②①の実現には、多様な分野・領域・レイヤーの支援者ネットワークが必要であること、③直接支援者だけでなく、寄り添い型支援を行う間接的支援者も必要であることなどがわかりました。

- 一方、NPO等の支援者の活動実態をみると、①小規模な組織が多いこと、②ヒト・モノ・カネ・場所の確保に課題を抱えている組織が多いこと、③支援方法などに対する思いやこだわりが強いために、支援者同士が一緒に活動することは少ないこと、④カバーしている範囲が限定的で（例：食支援）、それ以外の支援ニーズに対応できていないこと、⑤子ども支援を行っている他の領域の支援者とのつながりが弱いことなどがわかりました。

- こうした現状把握を通じて、子どもへの包括的・継続的支援を実現するためには、異なる領域・分野の支援者同士をつなぐ必要性が高いと考えました。そこで、子ども支援に関わる様々な支援者が一同に会したシンポジウムを企画・開催しました（右部参照）。

埼玉県立大学研究開発センター オンライン シンポジウム

「子どもの最善の利益とはなんだろう？」

支援者がお互いの強みを知り、地域で切れ目ない支えを考えてみる集い

今回、母子支援-子育て支援、社会的養護につながる若者のアフターケア事業まで各領域で活動している団体が集う場を企画しました。今ほど、コロナ禍を経て、地域社会から孤立し、支援につながらることが増し、いまままでやがていなくなる、不安定な状態に置かれた子どもたちへの対応を話し合う必要があると考えています。「子どもの最善の利益とは何か」、そのための地域資源による切れ目のないサポートでできないかを皆様と考えていきたいと思います。顔合わせ・経験者の強みのきっかけづくりの場とでも考えてください。

日時 第1回 1月29日(土) 13:00～16:00
 第2回 4月30日(土) 13:00～16:00

形式 オンライン シンポジウム形式 ZOOMにて開催

対象 子ども・子育てを支援している団体、行政、社協、その他関係者
 地域で子どもを支えたいと思っている方

内容 埼玉県内にて各領域で支援活動をしている団体の活動紹介、情報交換・交流会

主催 埼玉県立大学研究開発センター
共催 一般社団法人コソバナビ、NPO 法人リマインド
後援 埼玉県

第1回 **1月29日(土)**
13:00～16:00

一般社団法人 コソバナビ
 業務こども支援センター
 公益社団法人 埼玉県社会福祉協会
 公益社団法人 埼玉県福祉センター
 埼玉県子育てサポート・ステーション 埼玉
 さいたま子ども家庭総合センター さいはつと
 さいたま児童館
 NHK さいたま放送局
 多様な学びプロジェクト
 こども未来の学びプロジェクト 埼玉県
 埼玉県こども家庭課

第2回 **4月30日(土)**
13:00～16:00

NPO 法人リマインド
 ハビドママーケアプロジェクト
 新の関子ども・児童支援ネットワークアクトポート
 一般社団法人 さいたまこども未来の未来人材開発推進
 NPO 法人さいまほ
 NPO 法人おすまほほ
 ヘルパーアソシエーション
 一般社団法人 Master Piece
 NPO 法人さいたまアクトポートネットワーク
 NPO 法人こくろくろ
 公益社団法人子どもどりの会

※参加費は無料

お申込みはフォームページにて登録をお願いいたします。
<https://business.form-mailer.jp/fms/22f24c8a159609>
【お問い合わせ】 埼玉県立大学研究開発センター 電話 048-973-4363



多主体が集う「プラットフォーム」を活用した 地域課題の解決手法の開発

大学院研究科・研究開発センター

川越 雅弘 教授

【研究分野】 地域包括ケアシステム、地域づくり
【キーワード】 地域包括ケア、地域共生社会、多主体協働、プラットフォーム
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid372.html>



研究紹介

3. 市町村単位でのネットワーク構築（北本市・川口市）

- 地域の様々な関係者が協働して地域課題を解決していくためには、市町村単位でのネットワークづくりが必須となります。そこで、北本市では、北本市社協と一緒に、地域資源の把握とネットワークづくりを目的とした定期的なシンポジウム「きたもとごちやまぜの会」を定期開催しています（下図参照）。
- 次年度以降は、解決すべき地域課題を設定した上で、関係者を交えて、現状把握～課題の共有～対策の検討・実行～モニタリングといったPDCAサイクルを展開していく予定です。

10月30日(土)
10時～12時
オンライン開催
参加費無料



第2回 ～地域のつながりづくりに向けて～
きたもとごちやまぜの会

目的：地域共生に向けた取り組みを行う福祉医療関係者及びその考えに賛同する個人や団体を幅広く集めたネットワークミーティングを開催することにより、お互いの顔や名前、活動内容や課題等を把握し、今後の北本市の地域づくりのネットワークを構築することを目的とします。

内容：定期的(年に数回)にZOOM等を活用したネットワークミーティングを開催します。

参加者：北本市の地域づくり、街づくりに興味のある個人や団体。

アピールポイントなど

- 複数の民間企業・日本医師会のシンクタンク・厚生労働省の研究所での勤務経験を有しており、多様な主体の連携・協働を図る上では適任かと思えます。
- また、すでに、地域課題解決に向けたネットワークも構築しています。埼玉県内で、多様な主体と連携し、地域課題を解決したい人は是非ご相談下さい。